



みんなで150周年に向かって！

川小だより

学校教育目標

・美点を認める明るい子 ・ルールを守る正しい子 ・背筋の伸びた丈夫な子

【目指す児童像・・・素直な子】

令和5年 6月30日(木) No.4

狭山市立入間川小学校

〒350-1323 狭山市鶴ノ木5-9

TEL 04-2952-6221 FAX 04-2952-6222

児童数 6 / 29 現在
491名

想定外を想定する その2

校長 伊藤 秀一

先月のこの紙面で、文部科学省の「学校安全総合支援事業」のモデル地域に本校が選定され、学校安全の組織的取組、外部専門家の活用、学校間の連携を促進し、学校安全の取組の推進を目指すことをお知らせしました。

事業の一環として、6月23日の午後、我が国における防災教育の第一人者である大木聖子（さとこ）慶應義塾大学准教授を本校に迎えて、地震発生に伴う教員実動訓練を行いました。教員実動訓練とは、実際の人員や建物を使って行う訓練で、地震に伴う災害の発生の様子を再現した状況で行うものです。この場合の、実際の人員とは本校教職員と本校児童役である約20名の大学生です。

訓練は、3時間目の授業前の休み時間に、震度6強の地震が発生した、という想定のもとで行いました。従来も、同じような時間設定で避難訓練を行ったことはありました。しかし、今回の訓練では、過呼吸になってしまったり、階段で転倒するなど負傷したりする児童が、何よりも立て続けに余震が発生し、教職員が救助等の対応ができなくなる時間帯があることが、従来の訓練と大きく違う点です。

想定とともに対応も大きく異なります。これまでであれば、地震の揺れが収まったら校庭に避難しておりましたが、①校舎は耐震化がなされている②余震により移動が困難になる③腰が抜けて動けなくなってしまう教職員や児童が出る、ことから、割れた窓ガラスなどに注意しつつも教室等の校舎内に留まります。また、教職員は児童の安否確認や負傷した児童への手当や搬送などに当たります。

停電により放送ができず全校への一斉の指示・連絡ができないこと、搬送に必要な担架が今どこにあるのか把握することが難しいなど、様々な課題が明らかになりました。全体を掌握するつもりで臨んだ私でしたが、地震発生時にいた校庭から対策本部である保健室前への移動の途中で発見した負傷者（児童役の大学生）への対応で、想定した全体掌握などの活動はほとんどできませんでした。わずか15分間の訓練時間でしたが、1時間以上動き続けたように感じました。

今回の訓練の一番の収穫は「常識を疑う目を持つ」必要感を、参加した教職員が共有できたことです。そのことを基に、訓練を振り返り、より想定外を想定した避難や予防対策、安全教育を推進したいと考えております。

早速翌月に進捗をこの紙面でご報告できたことと、実動訓練の様子がNHK総合「おはよう日本」（6月20日朝）、埼玉新聞（6月23日）などのメディアにより、県内外に大きく報道されたことが、私にとって一番の想定外でした。